

Google アカウント使用を許可することで広がる学びの可能性

1 Google アカウント連携が許可されるとできるようになること

- ・Google 以外の教育系サービス（例：Canva、Padlet、Scratch など）に、Google アカウントで安全にログインできるようになる。
- ・新たな個人アカウントを作成する必要がなく、児童が簡単・安全にアクセスできる。
- ・教員が複数のツールを統合的に管理でき、ログインやパスワードのトラブルが減少。
- ・各アプリで作成した成果物や学習履歴を Google ドライブ上に一元管理できる。
- ・教員が目的に応じて最適なツールを選べるようになり、授業デザインの幅が拡大。
- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」を両立でき、GIGA スクール構想の理念を具体化できる。

2 安全面と管理面での利点

- ・Google アカウントでのシングルサインオン（SSO）により、個人情報の入力リスクを減らし、安全にログイン可能。
- ・教育委員会が許可した範囲でのみアクセス可能に設定でき、統制された運用が実現。
- ・「外部サービス利用＝危険」ではなく、教育機関向け契約を持つ安全なサービスの活用が可能。

3 活用が期待される代表的な教育ツールとその効果

児童が Google アカウントで安全にログインできるようになると、以下のような多様なツールを活用した学びが可能になる。（例として）

- ・Canva for Education：ポスター・プレゼン資料・カード制作など、創造的な表現活動を促進。
- ・Padlet：意見交流や共同掲示板として利用。協働的な学びやふりかえり活動に有効。
- ・Scratch / Scratch Jr.：プログラミング的思考の育成。試行錯誤を通して論理的思考力を養う。
- ・Quizizz / Kahoot! / Blooket：ゲームの要素を取り入れた復習や確認学習に活用。
- ・Book Creator：学びを電子書籍としてまとめることで、構成力・文章力・表現力を育む。

4 教育的な波及効果

- ・Google コアアプリ（ドキュメント・スライド・スプレッドシート）だけでは再現しづらいデザイン、プログラミング、探究活動が展開可能。
- ・子どもたちの創造力・表現力・協働力・ICT 活用能力を総合的に伸ばすことができる。
- ・教員の授業設計に幅が広がり、児童一人一人の得意や興味・関心を生かした指導ができる。
- ・「学びをつなぐ」ことが容易になり、家庭学習・発表・共有・発信へと活動が広がる。
- ・Google アカウント連携を認めることで、市としての ICT 教育の先進性を高めることができる。

5 今後の方向性

- ・教育委員会が安全性を確認し、段階的に利用範囲を拡大していきたい。
- ・Canva for Education など、全国で実績のある教育サービスから導入を進める。